

2016 年度委員会抱負並びに事業活動計画(案)

委員会	NEXT STAGE 特別委員会
担当専務理事	南出 誠
委員長	清原 大晶
副委員長	藤本 進矢
委員会開催日	18日
L O Mスローガン	
委員会スローガン	～新成～ 未来に躍動できる組織を目指して
委員会抱負	
<p>我々公益社団法人守山青年会議所は、昨年創立45周年を迎え一人ひとりが行動をおこしながら「次なるステージ」に向けて活動してまいりました。それとともに、時代の変化や地域社会を取り巻く環境は一層多様化・高度化しており、我々も時代に即した「組織変革」を早急に進めていかなければなりません。また、会員拡大活動が近年の重要課題であり、会員数の減少により財政面も含め組織の運営が十分に機能できていない面も生じてきています。</p> <p>そこでNEXT STAGE 特別委員会では、将来の守山JCの組織のあり方を提唱すべく、より一層まちに「信頼」され「必要」とされる団体であるために、我々の活動についての「公益性」を追求します。次に行政や他LOMをはじめ、その枠を超えた他団体とも広く交流し、積極的な情報交換を通じて各組織の特徴を学び、それらの利点を守山JC独自の手法として考案し、財政面での適切な運営方法も含めた将来の守山JCの「進化した組織」のカタチを提案します。また我々の活動について褒賞申請を行い、それを発信するだけではなく他LOMの事例も情報として受信し、今後の事業展開の一助とします。さらに、日本JCが推奨する「まちづくり」に関する施策や戦略についても調査・研究しメンバーに情報提供し個の成長を促すことで、一人ひとりの結集が魅力ある組織への成長へと繋がります。またそのことが、近年の課題である「新たな力」の獲得への要因となり、より強固で効率的な組織運営である「新成・守山JC」への真の「進化」になります。</p> <p>あらゆる情報が飛び交い、ともすれば混沌とした「今」という時代において、メンバー個々がその変化に迅速に対応し、それぞれの個性を発揮しながら、わがまち「守山」に対して熱い想いと、まちのリーダーとしての「気概」を持ち行動する。我々守山JCが更に高い「次なるステージ」に大きな歩みを踏み出せるよう導きます。</p>	
事業活動計画	
1. 今後の守山青年会議所の組織についての調査・研究・提唱（通年） 2. 褒賞申請事業の共有並びに精査（5月・6月） 3. 褒賞申請（6月～8月） 4. 各種褒賞申請の受発信（5月～10月）	
意見	
執行部会での意見・対応	
(意見)抱負の中の「褒賞」が「褒章」になっているので修正してください。	
(対応)修正いたしました。	
(意見)抱負の書き始めは「公益社団法人」を追記してください。	
(対応)追記しました。	
(意見)書始め以外は守山JCに修正してください。	
(対応)修正いたしました。	
(意見)2段落目はこの委員会が設置された背景なのでは。	
(対応)主体が「NEXT STAGE特別委員会」であり、当委員会が実施する項目を記載しております。背景ではごさいま	
(意見)他団体とはどこの団体なのか？どのような交流をメンバーで行うのか？	
(対応)限定はしていませんが、まちづくりに関わる団体と情報交換を積極的に行います。	
(意見)情報提供はいつの段階でおこなうのか？	

(対応)定例会での報告事項や、守山JCの広報ツールです。
(意見)「次なるステージ」とはいつを目指してのことなのか。
(対応)常に次の段階です。次年度毎や、場合によっては「明日」であるとも考えます。
(意見)「我々も時代に即した組織変革」について、組織も高度化に即したものにするのですか。
(対応)「高度化」だけに掛かっているのではなく、広義で「環境の変化」に対応すべきという意味です。
(意見)組織の話なのに「個の成長」など、個人のことが記載されている。
(対応)洗練された「個」の力やそれを発揮できる「個」集合体が、魅力ある組織だと考えます。「個」の成長は必要です。
(意見)財政のことにも触れる必要性があります。
(対応)1段落目と2段落目に記載しました。
協議での意見・対応
(意見)
(対応)
(意見)
(対応)
その他・対応